



kanto 154

2026.06.20

## AI を前提とした外国語教育の在り方 － 小学校の事例から －

日時・場所

日 時 2026年06月20日(土曜日) 9:00 ~ 16:30

会 場 オンライン Zoom

参加費 (会員) 無料 (非会員) 1,000円

\*参加申し込みは Peatix の大会ページにて参加用チケットをお求めください。チケットをお持ちの方に後日、ZOOM リンクをお送りいたします。(詳細は支部 HP をご覧ください)

時 程 8:45 ~

入室開始

<午前の部 各種口頭発表>

9:00 ~ 11:20 研究発表・実践報告・研究支援/発表促進 PG 発表

11:30 ~ 12:30 お昼休み

12:30 ~ 13:00 開会行事・総会

<午前の部 シンポジウム>

13:10 ~ 14:10 第一部 基調講演

14:20 ~ 15:20 第二部 現職教員「小学校外国語 AI・ICT 活用実践報告」

15:30 ~ 16:30 第三部 パネルディスカッション

16:30 ~ 閉会行事

主 催 外国語教育メディア学会 (LET) 関東支部

●事務局●

〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1

関東学院大学建築・環境学部 本沢 彩 (モトザワ アヤ)

電話 : 045-786-7837 E-mail : [kanto-office@j-let.org](mailto:kanto-office@j-let.org)

午前の部 研究発表・実践報告・研究支援／発表促進 PG 発表

開始	終了	ブレイクアウトルーム 1	ブレイクアウトルーム 2	ブレイクアウトルーム 3
8:45 から入室可能です				
9:00-10:05		<b>研究発表・実践報告</b> 調整中 (調整中)	<b>研究発表・実践報告</b> 調整中 (調整中)	<b>研究発表・実践報告</b> 調整中 (調整中)
9:00	9:30	① 研究発表  ハイライト時の指示の違いが日本人英語学習者の複数テキスト読解処理とその認識に与える影響  三上 洋介 (明星大学)	② 研究発表  生成 AI の自動作問機能とシャドーイングの自動評価機能を組み合わせた英語活動の試み  山内 豊 (創価大学)	③ 研究発表 【研究発表促進 PG 対象】 要約型ライティング評価尺度の妥当性検証—二値分岐型とグリッド型の比較—  土居 遼希 (筑波大学大学院)
9:30	9:35	(休憩・発表者入れ替わり)		
9:35	10:05	④ 研究発表 【研究発表促進 PG 対象】 字幕条件の違いが日本人英語学習者の付随的語彙学習に与える影響—学習者の語彙知識の広さと深さに着目して—  早房 拓実 (筑波大学大学院)	⑤ 研究発表  AI 評価型英語スピーキングテストの反復受験がもたらす効果  佐藤 夏子 (東北工業大学)	⑥ 研究発表 【研究支援 PG 成果報告】 【研究発表促進 PG 対象】 大学生の瞬間英作文指導の効果における 2 年間の縦断的研究 (最終報告)  長岡 穂 (西武文理大学)

開始	終了	ブレイクアウトルーム 1	ブレイクアウトルーム 2	ブレイクアウトルーム 3
10:15-11:20		<b>研究発表・実践報告</b> 調整中 (調整中)	<b>研究発表・実践報告</b> 調整中 (調整中)	<b>研究発表・実践報告</b> 調整中 (調整中)
10:15	10:45	⑦ 研究発表  大規模言語モデルを用いた中級文型の用例の特定と要素の解析：教師と LLM との協働による日本語文法授業に向けて  鈴木 美加 (東京外国語大学) 王 棟 (早稲田大学)	⑧ 研究発表 【研究支援 PG 成果報告】 入学者選抜における不受験者評点推定の課題：東京都中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) を事例として  酒井秀翔 (東京大学大学院教育学研究科) 青田庄真 (茨城大学教育学野)	⑨ 研究発表  叙述型と論述型タスクにおける日本人英語学習者の英作文と発話にみられる前置詞句の使用  尾崎 ちひろ (東京電機大学)

10:45	10:50	(休憩・発表者入れ替わり)		
10:50	11:20	<p>⑩ 研究発表</p> <p>非言語指標の AI 解析と省察記述のマルチモーダル分析：小学校外国語教職課程履修生の「自信」の変容に着目して</p> <p>山口 高領 (秀明大学)</p>	<p>⑪ 研究発表</p> <p>【研究発表促進 PG 対象】</p> <p>デジタルゲーム活動を通じたベルギーの小学生との交流は、日本の小学生の英語コミュニケーション意識をどう変えるか</p> <p>Carlot Charline (鳴門教育大学) 阪東 哲也 (鳴門教育大学) 岡 朋哉 (鳴門教育大学附属小学校)</p>	<p>⑫ 実践報告</p> <p>Training an AI to create multiple choice questions for vocabulary listening quizzes: A report on an initial attempt and related findings</p> <p>スプリング ライアン (東北大学) 震明 万智 (東北大学)</p>

11:20-12:20	<b>賛助会員ミニプレゼン／お昼休み</b>
<p>賛助会員によるミニプレゼンテーション（動画）を放送いたします。 ぜひご覧ください。</p>	

12:30-13:00	<b>開 会 行 事 ・ 総 会</b>
<p><b>第 154 回 関東支部研究大会 開会のご挨拶</b>          外国語教育メディア学会 (LET) 関東支部支部長      小野 雄一 (筑波大学)</p> <p><b>2026 年度 関東支部総会</b></p>	

## 午後の部 シンポジウム

### 「AI を前提とした外国語教育の在り方－小学校の事例から－」

13:10-14:10	<b>第一部 基調講演</b>
「AI 翻訳の現在とこれから」 隅田 英一郎 氏 (国立研究開発法人 情報通信研究機構フェロー)	

14:20-15:20	<b>第二部 現職教員 11 人による 「小学校外国語 AI・ICT 活用実践報告」</b>
【発表者（氏名 50 音順 ※当日の発表順とは異なります） および発表タイトル】	
伊藤 寧 氏 (兵庫県三木市立別所小学校 教諭) 「Beyond English : 学びのデザイン～ICT や生成 AI を子どもが活用した授業づくり～」	
大野 翔 氏 (日高市立高根小中学校 教諭) 「子ども達がコミュニケーションをとりたくなる、生成 AI を活用した教材づくりの工夫」	
奥平 明香 氏 (琉球大学教育学部附属小学校 教諭) 「自己調整力を育てる e-ポートフォリオの活用事例～子どもたちの柔軟な活用事例～」	
恩地 麻里 氏 (羽曳野市立西浦小学校 教諭) 「『あの子が、英語漫才した。』 ～AI 時代の授業設計～」	
黒木 愛 氏 (筑波大学附属小学校 教諭) 「AI・ICT を活用した心をつなぐ外国語科の授業づくり」	
坂本 純一 氏 (関西学院初等部 教諭) 「自走する学びのエコシステム～教室と OneNote と私～自立学習編」	
田鍋 敏寿 氏 (彦根市立城南小学校 教諭) 「『イマ』必要な外国語の『チカラ』を育てる～AI 時代だからこそ大切にしたいこと～」	

恒吉 泰行 氏 （西宮市立山口小学校 教諭）

「生成 AI を活用した発音確認ボードの作成」

生井 光治 氏 （大田区立萩中小学校 主幹教諭）

「英語が苦手な教員だからこそ『必然性』を生み出す AI 活用」

成田 潤也 氏 （神奈川県 厚木市立鳶尾小学校 総括教諭）

「英語を話す経験値を底上げする生成 AI 活用」

藤井 悦子 氏 （兵庫県姫路市立東小学校 外国語専科）

「児童の気づきを生む学習者用デジタル教科書の使い方」

15:30-16:30

### 第三部 パネルディスカッション

#### 「AI を前提とした外国語教育の在り方」

【コーディネーター兼パネリスト】

成田 潤也 氏 （神奈川県 厚木市立鳶尾小学校 総括教諭）

【パネリスト】

隅田 英一郎 氏（国立研究開発法人 情報通信研究機構フェロー）

山本 康太 氏（東京都 練馬区立大泉中学校 主任教諭 [英語科]）

16:30-

### 閉会行事

閉会の挨拶

外国語教育メディア学会（LET）関東支部副支部長

調整中

## 会員・関係者の皆様

皆様、本日は外国語教育メディア学会関東支部 春季研究大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より関東支部の活動にご理解とご協力を賜っておりますこと、支部を代表して心より御礼申し上げます。

本年度の大会は、「AI を前提とした外国語教育の在り方：小学校の事例から」をテーマとして、オンライン・Zoom 形式にて開催いたします。

近年、生成 AI や AI 翻訳技術の急速な発展により、外国語教育を取り巻く環境は大きく変化しています。特に小学校教育の現場においては、ICT 活用が日常化する中で、「AI とどのように向き合うのか」「AI 時代に求められる外国語教育とは何か」という問いが、これまで以上に重要になってきています。本大会では、小学校現場における具体的な実践を通して、AI を前提としたこれからの外国語教育の可能性や課題について考えていきたいと思っております。

午後には、国立研究開発法人情報通信研究機構フェローの隅田英一郎先生による基調講演「AI 翻訳の現在とこれから」を予定しております。また、現職小学校教員 11 名の先生方による AI・ICT 活用実践報告、さらにシンポジウムを通して、教育現場と研究の双方の視点から、多角的な議論が展開されることを期待しております。

さらに、本年度夏には、札幌にて第 65 回全国研究大会が「AI 活用外国語教育の未来予想」というテーマで開催予定となっております。本大会は、その全国大会へとつながる重要な議論の場でもあり、とりわけ小学校英語教育における AI 活用について、現場実践を踏まえながら具体的に考えていく契機となれば幸いです。

今回は Zoom によるオンライン開催となりますが、参加者の皆様、そして運営に携わる皆様双方の負担も考慮しながら、全国各地の先生方・研究者の皆様に広くご参加いただける形で開催することといたしました。本大会では、多数の研究発表・実践報告をご用意しております。ぜひ多くの方々につながっていただき、それぞれの実践や研究に役立てていただければ幸いです。また、本日の交流が、新たな連携や協働のきっかけとなることを願っております。

結びに、本大会の開催にあたりご尽力くださいました大会運営委員の皆様、ご発表・ご登壇いただく皆様、そしてご参加くださるすべての皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

外国語教育メディア学会  
関東支部長 小野 雄一